

令和3年2月24日

安芸市福祉事務所長

山崎美佳 様

安芸市立井ノ口保育所

所長 中屋千佳



令和2年度井ノ口保育所園評価報告書

1 保育所における自己評価の記録

月	自己評価	月	自己評価
4月	○園経営計画の作成 ○令和2年度重点目標の設定 ○園評価項目・指標の設定 ○職員への園経営計画・園評価の説明と共通理解	9月	○設置者への中間評価の報告 改善策の検討
6月	○保護者への園評価の説明	11月	○保護者アンケートの実施
8月	○中間評価、実施(職員・園の自己評価)	1月	○アンケートの集計、分析 最終評価の実施(自己・園の評価)
		2月	○設置者・保護者への報告 改善策の検討

2 評価結果

総括的な自己評価結果について

<成果>

- ① 保育・教育活動の充実については、各個人での保育の振り返りを週日案・月案へ具体的に記録し、その後職員全体で話し合い、次へとつながる取り組みをしてきた。また、職員会等で保育を振り返ることで保育所全体の事や今後の保育を考えることができるようになった。安全管理では、ケガにつながる要因はないか、職員全員で確認・報告し、改善することが増えた。今後も、継続していく。
- ② 職員の育成・資質向上や運営の中の「園に関する様々な情報を発信する」については、新型コロナウイルスの為、保育所の利用方法や園の行事等においては例年通りにはできず、お便りやホワイトボードで知らせてきた。保護者全員への個別説明を実施するなど、保育内容や行事が円滑に進むよう色々な方法を工夫し発信してきた。保護者の協力で一定理解をいただいている。園務分掌については、担当分掌を遂行できたことで自信となり、園全体のことにも積極的に取り組むことができた。
- ③ 地域に開かれた保育所作りの中の「保護者との連携」については、保護者アンケートを実施し、保育所に対する意見をいただいた。保護者の言葉を職員全員で受け止め、今後も話し合い考えながら保育を進めていきたい。連携に関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、地域・小学校・保育所とも交流を持つことが難しい状況であった。地域に対しては、行事中止のお知らせのみになっていたが、秋以降の子ども達の様子を載せたお便りを作り、数回発信した。小学校と保育所の職員同士は、情報を共有しながら子どもの育ちをつないでいる。

<課題・主な改善策>

- ① 保育・教育活動の充実
 - ・保護者アンケートで、絵本に対する子ども達の興味があまり感じられないとの意見があり、来年度は、絵本に関する取り組みを行う。
 - ・子ども達が遊びの選択を今以上できるように、保育室内の材料・道具の取り入れ、環境の再構成を図る。
- ② 保護者との連携
 - 子どもの育ちや保育への理解を深める機会をつくる為に、保育懇談会を行ったが、保護者アンケートからも子育ての相談が十分ではないとの意見があり、今後学習会の開催や個別での懇談を取り組んでいく。

経営の柱	今年度の重点目標	評価項目	評価指標と評価結果				分析・考察
			取組指標	結果	成果指標	結果	
☆保育・教育活動の充実	身近な環境と関わる中で、豊かな心と丈夫な体を作る	〔指導計画〕 保育の記録と振り返り	4 記録をもとに職員会などで報告情報提供し、保育に生かす	3.3	4 記録と振り返りができ、保育に生かした 90%以上	3	・毎日の記録を具体的にこなすことで、改善点や次への課題が見えてきて、自分の保育を振り返ることができた。しかし、毎日の保育時間の中で工夫した記録を書くには、時間的に難しいこともあった。 ・評価したことをどのように保育に取り入れるかを、個々の気づきや振り返りを基に、職員会等で話し合い保育に生かしてきた。
		3 記録の取り方を工夫する	3 60%以上				
2 気づいたことを各自が記録する	2 50%以上						
1 記録や振り返りを取る時間を確保する	1 50%未満						
		〔安全管理〕 安全点検や保育者の乳幼児の安全対応能力の向上を図るための取り組み	4 保護者・地域の方と避難訓練をする。記録・安全の為に提案をする	3	4 安全点検や安全対応能力の向上を図る行動ができた 90%以上	2.6	・子どもたちが安全に生活できるような保育所での生活・遊びにおいて(保育室の環境や廊下)に物を置かないなど危険なことには常に気を付けてきた。避難時には、危険なものが落ちていないか確認しつづけてきた。 ・避難訓練(火事・地震)は月一回行い、毎月設定を変えながら取り組んだ。不審者に対する訓練も年3回行い、子どもにわかる合言葉を作ったことで、避難がよりスムーズになった。 ・災害用伝言ダイヤルは職員で3回取り組んだ。保護者にもお便り等で知らせたが、取り組みは不十分だった。
3 災害用伝言ダイヤルに取り組む	3 70%以上						
2 2ヶ月に1回遊具の点検をする	2 50%以上						
1 月一回以上避難訓練をする	1 50%未満						
◆職員の育成・資質向上や運営	共通課題に向かう職員の協力的体制作り	〔情報〕 園に関する様々な情報を発信する	4 保護者にアンケートを出し改善する	3.6	4 アンケートや意見を求め、保育について改善ができた	2.8	・今年度は、新型コロナウイルスの為、保育所の利用の仕方や行事等において例年通りにはいかず、そのことについて、便り・ホワイトボードでのお知らせ・保護者全員への声がけ等、必要に応じて情報を発信してきた。特に、変わったことは、一人ひとりと話をして協力していただいた。 ・保護者との日々の対話を大事にしなが、お便り(園・クラス・給食)で保育内容や給食のことなど保育所として大事にしているところや、子ども達の様子発信してきた。 ・11月に園に対するアンケートを行ったことで保護者の思いを知ることができた。そのアンケートを職員全員で共有・分析を行い、今後の課題や対応について話し合えた。できるところから改善していった。
		3 行事の便りを発信する	3 行事の取り組みが分かる便りを発信した				
2 園・クラス便りを発信する	2 子どもの姿が見える便りを発信した						
1 保育内容を話す	1 子どもたちに対して、何を大事に保育しているか保護者に話せた						
		〔園内分掌〕 園務分掌・分掌事務について職員の話し合い	4 月3回以上	3.2	4 園全体の事を考えながら、担当分掌を責任をもって遂行し、改善や新たなアイデアを出せた	3	・職員一人ひとりが園全体の取り組みを理解し共有できるよう定例職員会以外でも時間を作り、話し合ってきた。特に、輪番の月当番は職員全員が行うことで、保育や行事などが円滑に進み、担当分掌を遂行できることで自信にもつながり、職員間の連携がより持てるようになった。 ・経験の少ない職員が、悩みや取り組みに対して自信がないときに、職員のアドバイスや声がけで、積極的に行動することが多くなった。
3 月2回程度	3 担当分掌を責任をもって遂行し建設的な発言ができるようになった						
2 月1回程度	2 担当分掌について振り返り改善したり、職員会等で提案したりできた						
1 行事の度	1 自分の役割を自覚できるようになった						
◎地域に開かれた園づくり	保護者や地域に信頼される保育所作り	〔保護者との連携〕 子どもの育ちや保育への理解を深める機会をつくる	4 必要に応じて、家庭訪問や面談を行う	3.4	4 面談や訪問、学習会など行い保護者の思いに寄り添い対応できた 80%以上	2.8	・保護者全員対象の学習会を9月に計画していたが、新型コロナウイルス対応の為延期している。学習会が可能になれば取り組む。 ・毎日の登降所時には、保護者に対して声がけをし、子どもの様子を話しながら成長をともに共有し喜び合ってきた。 ・クラス懇談会を行い、子どもの発達などについて話し合った。必要に応じて、担任だけではなく所長を交え個別面談を行い保護者の思いに寄り添ってきたが、園評価のアンケートで子育ての悩みへの対応が十分でないとの意見があり、今後取り組んでいく。
		3 年齢の発達や子どもの個性について、保護者と学習し合う	3 65%以上				
2 子どもの様子や子育てについて、連携・共有できる機会を設ける	2 50%以上						
1 登降所時に子どもを中心とした話をする	1 50%未満						
		〔小学校との連携〕 就学に向けて相互理解のもと、子どもの育ちをつなげる	4 保小連絡会以外でも情報を共有する	2.8	4 連絡会以外でも情報共有ができ子どもの育ちをつなげた	2.8	・職員同士の交流は、連絡会以外でも出来た。就学前の子どもについて、今の姿を見ていただける機会も作り、就学に向けて育てたい力を確認することができた。今後も、引き続き情報共有し、子どもの育ちをつなげていく。 ・例年なら、保育所・小学校の行事等で子どもたち同士の交流が持てるけれど、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為ほとんど待っていない。園に来と子どもに話しかけ様子などを聞いている。
3 保小連絡会で情報を共有する	3 行事以外で交流ができた						
2 行事での交流	2 1学期に2回						
1 子どもたちの交流	1 1学期に1回						